

— 農林事務所管内の動き —

1 福岡農林事務所管内

■ 農業

- ・ J Aむなかたは、強い農業・担い手づくり総合支援交付金で整備したカントリーエレベーターの利用を令和4年度から開始。大豆栽培では、現行品種より1割程度の収量増が見込まれる県育成新品種「ふくよかまる（品種名：ちくしB5号）」へ全面切り替えを行い、新たな施設の利用による運用コストの削減と併せて、農家所得の向上を期待。
- ・ 4年度の狩猟免許試験で、管内では県全体の4割以上を占める延べ240名が合格し、狩猟者登録数も増加。50歳未満の狩猟者登録数の割合は30%と、県全体と比較して8ポイント高く、高齢化が進む有害鳥獣捕獲者の若返りによる、さらなる農林水産物の被害減少が期待。
- ・ J A糸島では、地域の農家が雇用労働力を安定して確保できる体制を構築するため、関係機関でプロジェクトを立ち上げ、4年10月にJ A糸島無料職業紹介所を開設。4年度は求人者・求職者を絞った試験運用を行い、課題を明確にし、改善することで5年度からの本格運用を予定。
- ・ 北筑前普及指導センター管内のスモモでは、列状に苗木を植栽した後、主枝を倒して隣の樹と接ぎ、複数の樹を直線状に仕立てるジョイント栽培の導入が進み、1.1haまで拡大。早期成園化及び剪定作業等の省力化につながる技術として期待。
- ・ しみずようすけ清水陽介氏（宗像市）が令和4年度全国麦作共励会（農家の部）で全国農業協同組合中央会会長賞を受賞。「部分浅耕—工程播種技術」の導入による省力化の取組や、排水対策に重点を置いたきめ細かな栽培管理による高収量の生産力が評価。

地域のトピック

○全国和牛能力共進会 第8区で優等賞を受賞

- ・ 令和4年10月、鹿児島県で「和牛のオリンピック」とも呼ばれる「全国和牛能力共進会」が開催。
- ・ 管内の「博多和牛」生産者は、和牛の改良成果を競うこの共進会出場を目標に、関係機関と一体となり、定期的に体重測定や超音波画像診断をしながら牛の状態を観察し、約2年をかけて精魂込めて育成。
- ・ その結果、本県の4頭の出品牛のうち3頭が管内から選出。
- ・ 筑紫野市の平山牧場の「若久号」が、肉牛の部第8区（去勢牛肥育）において最高賞となる優等賞を受賞。
- ・ 同じく第8区に出品した糸島市の（株）長浦牧場の「勝久号」、第3区（若雌の2）に出品した糸島市の（株）木村牧場の「のぞみ号」も、優等賞に次ぐ一等賞を受賞。



平山英一さんと「若久号」

■ 林業

- ・福岡地区森林・林業推進協議会*では、令和4年8月に篠栗町において、県産材を活用したCLTと鉄骨を組み合わせた中規模4階建準耐火建築物の構造見学会を開催。建築士や設計士など51名が参加。住宅のみならず中高層建築物の木造化による木材の需要拡大や地域林業の活性化を期待。
- ・篠栗町において、4年11月に「みらいへと みどりの光 とどけよう」をテーマに第73回福岡県植樹祭を開催。「緑化功労者」では同町の高性能林業機械メーカーをはじめ10団体・個人が、また「第8回福岡県木造・木質化建築賞」では10施設が、県知事賞をはじめ各賞を受賞。篠栗町の小学生が「みどりの誓い」を披露したほか、記念植樹では、関係者らが桜の名所の多い同町にちなんで「十月桜」を植樹。
- ・福岡地区森林・林業推進協議会では、4年11月に木育体験施設「福岡おもちゃ美術館」において、市町担当者向けの木育実践研修会を開催。市町や県担当者30名が参加し、木材と木製品との触れあいを通じて木への親しみや理解を深め、木材の良さや利用の意義を学んだ。管内市町において木育の取組が進むことを期待。
- ・管内の海沿い6市町において、海岸松林を守るため、昭和40年代以降に建設した治山施設の長寿命化対策を順次実施中。4年度から新たに古賀市花見地区において防潮護岸工の改修に着手し、7年度の完了を予定。
- ・篠栗町で開設中の森林管理道「小葉山線」（計画延長3,452km、幅員4.0m、利用区域140ha）は、5年度の完成を目指しており、林道整備が森林整備や木材生産の促進に寄与することを期待。

※福岡地区森林・林業推進協議会：区内の民有林と国有林の関係者が連携し、森林の整備、県産材の需要拡大、森林病虫害の防除などに関する諸施策の推進を図るために設立した協議会。

地域のトピック

なかむらはれお

○中村晴男氏（那珂川市）が春の褒章において黄綬褒章を受章

- ・那珂川市の中村晴男氏が、長年、林業の発展に寄与された功績により、令和4年春の褒章において、黄綬褒章を受章。
- ・39年の長きにわたり森林組合の職員として地域林業の振興に貢献され、節の無い良質な木材生産に必要な「枝打ち」技術を確立するとともに、若手林家の技術向上に尽力。
- ・森林組合長在任中の、二度にわたる森林組合の合併に際しては、合併協議の中心的役割を担われ、平成25年に設立された「福岡県広域森林組合」の初代組合長に就任。福岡県の森林・林業の発展に貢献。



黄綬褒章を受章した中村晴男氏

2 朝倉農林事務所管内

■ 農業

- ・野生鳥獣における農作物の被害低減のためには、農業者だけではなくその地域の住民全体で原因を共有することが必要。そこで、朝倉市の千手地区及び甘水地区において、地域住民で集落を巡回し、鳥獣被害の原因と対策を考える集落診断を実施し、防護柵の不備やほ場内の収穫物残さなどの原因を地域全体で共有。今後は、地域ぐるみで対策を実践し、鳥獣被害の軽減に期待。
- ・JA筑前あさくらとJAにじ柿部会青年部では、1日農業バイトアプリ「daywork※」を活用した労働力確保を実施。アプリの活用により、生産者ごとに希望する条件での雇用が可能となり、労働力確保の新たな手法として期待。
- ・久留米普及指導センターでは、新規就農者の技術向上のため、平成31年度から令和3年度の間就農した方を対象に営農基礎力強化研修を実施。共通科目（土づくり、農薬の安全使用）に加えて専門科目（イチゴコース、葉物コース）を新設し、現地視察も組み合わせ栽培技術の早期習得を支援。
- ・JA筑前あさくら梨部会は、県育成のなし新品種「玉水」を4年7月に初出荷。同部会は県内最大の「玉水」栽培面積を有しており、「玉水」の出荷により梨の生産拡大に弾みがつくことを期待。
- ・平成29年7月の九州北部豪雨災害からの復興が進み、朝倉市黒川地区では、5年ぶりに稲作を再開。いもち病に強い県育成水稻新品種「恵つくし」の試験栽培を開始。また、JA筑前あさくらが復興支援に向けて実施する「JAファーム事業」では、2期生4名が新たにJAより経営移譲を受け、これまでに計6名がアスパラガスによる営農を再開。

※daywork：生産者が募集している1日単位のアルバイトに対し、求職者が直接応募できるスマートフォンアプリ。

地域のトピック

○特定家畜伝染病に対する防疫体制を強化

- ・管内には県下で最大規模の養鶏場が存在。
- ・万一の発生時における初動対応を確実にを行うため、市町村との連絡体制や集合場所の再点検を実施。
- ・また、アンケートを用いて防疫対策に係る市町村の意向等を確認。実情に即した対応を可能にするため、家畜保健衛生所と連携し、大規模養鶏場の埋却地を事前に現地調査するとともに、防疫体制の強化に向け、発生を想定した地域防疫演習を開催。



埋却地の現地調査

■ 林業

- ・朝倉地区森林・林業推進協議会[※]では、林野庁森林利用課森林集積推進室の室長を久留米市に招き、「森林環境譲与税勉強会」を開催。久留米市とうきは市、浮羽森林組合が参加したほか、地元の大学教授や林業経営コンサルタントもオブザーバー参加し、国の森林環境譲与税の有効活用について意見交換。
- ・朝倉森林組合は、朝倉農業高校跡地に、本所事務所を移転、新築。新しい事務所には、東京オリンピック選手村建設のために利用され、その後地元へ返還された東峰村産のスギ材も一部活用。木の香りもすがすがしい事務所が、新たな拠点として地域林業の活性化に寄与することを期待。
- ・久留米市田主丸町の福岡県緑化センターにおいて、「グリーンフェスティバル2022」が3年ぶりに開催。緑あふれる環境の中で、木工体験や丸太切り競争等、様々なアトラクションが開催され、多くの親子連れを含む約1,800名が来場。
- ・筑前町にある夜須高原記念の森では、開業から約30年を経て施設の老朽化が進んだため、県有施設緑化事業を活用し、噴水や和風庭園の木橋をリニューアル。バリアフリーにも配慮し、県民が利用しやすい公園へと整備。
- ・平成29年7月九州北部豪雨で被災した林地の復旧は、県が治山激甚災害対策特別緊急事業により施工した49か所のうち、46か所が完成。残りの箇所についても早期完成を目指し事業を推進。

※朝倉地区森林・林業推進協議会：朝倉農林管内の6市町村・2森林組合・4木材協同組合で構成する、森林・林業の振興を目的とした協議会。

地域のトピック

○株式会社ネクストが乾燥原盤仕分機と木材乾燥機を導入

- ・株式会社ネクスト朝倉工場（本社：大分県日田市）では、国の補助事業を活用し、乾燥した製材品の自動仕分機1機と木材乾燥機2機を導入。
- ・朝倉工場の原木処理能力を高め、間柱や垂木など、国産羽柄材[※]の増産を推進。

※羽柄材：柱や梁などの構造材を補う、間柱や垂木など比較的小さい部材。



自動仕分機



木材乾燥機

3 八幡農林事務所管内

■ 農業

- ・令和4年9月、JA北九若松そさい部会小玉スイカ班は、高い糖度としゃりしゃりとした食感が特長の「若松クイーン」で、福岡県GAP認証を取得。さらなるブランド力の強化に向け、ラベルや出荷用段ボールの刷新、パンフレットの作成により積極的なPRを行った結果、4年度の販売単価は対前年比116%と高単価。
- ・北九州青果株式会社が、北九州市中央卸売市場内にストックポイント施設の整備を開始。5年秋の稼働を目指す。県内外から集めた青果物を同施設でトラックに混載、新門司港からのフェリーによる関東地方への輸送も視野。
- ・遠賀町の尾倉・千代丸地区では、担い手への農地集積・集約化を目指し、令和5年度から国の農地中間管理機構関連農地整備事業を活用して県が区画整理に着手。
- ・JA北九では、令和5年度から県育成大豆新品種「ふくよかまる（品種名：ちくしB5号）」への全面切り替えを予定。これまで、中間市において同品種の展示ほを継続して設置し、4年度は約2haを作付け。新品種への切り替えにより、大豆の生産振興に弾みがつくことを期待。
- ・北九州市若松区の野菜農家が、県の6次産業化発展事業を活用し、自社店舗販売のソフトクリームを改良。自家製野菜（かぼちゃや紫芋）のペーストをモンブラン状にトッピングして商品力をアップ。消費者からも好評で、若松の野菜のPR役として今後に期待。
- ・令和4年度福岡県麦作共励会で、岡垣町の^{ひょうぐちたくと}俵口拓人氏が農家の部で優秀賞（県知事賞）を受賞。大麦、小麦いずれも管内JA平均の1.5倍の高収量等の実績が評価。
- ・令和4年度福岡県大豆作経営改善共進会で、中間市の^{うえもととしお}植本利雄氏が農家の部で優秀賞を受賞。管内JA平均の2倍となる高収量の生産実績が評価。
- ・第23回福岡県農林水産まつりにおいて、岡垣町の^{たはらかずお}田原一男氏が特別功労者として表彰。また、JA北九遠賀中間地区いちご部会が名誉賞（園芸部門）、岡垣町の^{ももかわ}桃川公治氏が優秀賞（農産部門）を受賞。それぞれ、地域農業の発展に寄与したことが評価。

地域のトピック

○「遠賀屋糍 こめのはな」が、福岡県産米粉用米「ふくのこ」100%使用の無添加乾麺を開発

- ・「遠賀屋糍 こめのはな」が、県産米粉を用いた無添加の乾麺「福岡県産ふくのこ100%無添加BEIMEN べいめん」を開発。同商品は、令和4年度ふくおか6次化商品セレクションにおいて、県議会議長賞を受賞。
- ・県の特産品としての海外輸出も視野にパッケージデザインしており、今後の展開が期待。



海外輸出を視野にパッケージデザインされた BEIMEN

■ 林業

- ・遠賀地区の響灘沿岸の松くい虫被害拡大を抑えるため、福岡森林管理署、航空自衛隊芦屋基地、芦屋町、遠賀町、北九州県土整備事務所、県林業振興課の参加により「遠賀地区松くい虫被害対策会議」を開催。これまでの取組により、令和4年度は被害が減少していることを報告し、対策の重要性を確認。引き続き、被害拡大防止に向け、駆除や予防対策を継続。
- ・安全作業への意識及び伐倒技術の向上を図るため、4年10月に「福岡県伐倒技能選手権」を北九州市小倉北区の山田緑地で開催。全県から26名の選手が参加。小学生から大人まで多数の来園者が観覧し、林業のPRにも貢献。
- ・北九州市森林組合では、持続的な組合経営を実現するための中期経営計画を策定。事業の「見える化」により経営目標を共有し、職員が一丸となって仕事に取り組む組織を目指しており、経営改善と林産事業の進展を期待。
- ・経年劣化により損傷等が生じている治山施設の機能回復を図るため、個別施設計画に基づき修繕・補修等を実施。4年度は北九州市小倉南区大字道原及び母原地区において治山ダム3基、北九州市門司区大里地区において流路工1カ所70mの機能強化・老朽化対策を実施。今後も計画的に治山施設の修繕・補修を推進。

地域のトピック

○地域材の利用拡大に関する建築物木材利用促進協定締結

- ・北九州市と大英産業（北九州市）、ウイング（東京都）、伊万里木材市場（佐賀県）、北九州市森林組合は、令和4年12月26日に福岡県内では初となる建築物木材利用促進協定を締結。
- ・大英産業が北九州市で建設する戸建て住宅のフレーム部分へスギ材を供給することを目指し、北九州市森林組合が素材生産と造林及び育林を担い、伊万里木材市場が加工、ウイングがパネルを生産するというサプライチェーンを構築。
- ・地産地消体制が整い、林業・木材産業の活性化が期待。



協定調印式での記念撮影

4 飯塚農林事務所管内

■ 農業

- ・ J Aたがわでは、令和4年産大豆より、作付品種を「ふくよかまる（品種名：ちくしB5号）」に全面切替。これに合わせ、管内初となる大豆の採種ほを福智町に12ha、添田町に3ha設置。関係機関が一丸となり、適期播種等の栽培管理の指導を徹底した結果、種子として、契約数量を上回る収穫量を確保。今後も優良種子の安定生産を推進。
- ・ 直方市に J A全農ふくれん県北広域販売センターが建設されたことを契機に、直鞍・田川地区でブロッコリーの産地化を図った結果、出荷者数は10名増加の50名となり、作付面積は20haと3年度より3ha拡大。
- ・ 福岡県新規就農者育成総合対策（就農準備資金）の研修機関として、新たに先進農家3戸（飯塚市1、桂川町2）と1法人（添田町）が認定され10件に増加。4年度は6つの研修機関で6名の新規就農希望者が研修を受講。今後も新たな担い手確保を支援。
- ・ 飯塚市に J Aふくおか嘉穂の複合型ファーマーズマーケット「カホテラス」が4年11月にオープン。施設内の「かほ兵衛の台所」は、管内最大級の農産物直売所であり、地元農産物の認知度と販売力の向上を期待。
- ・ 第23回福岡県農林水産まつりにおいて、農林水産賞として、遠藤幸男氏（えんどうゆきお 鞍手町）が農産の部で、筑豊地域花き生産者連絡協議会（飯塚市）が園芸の部で、森坪清則氏（もりつばきよのり 添田町）が林業の部でそれぞれ名誉賞を受賞。管内で名誉賞を3者が受賞するのは第15回（平成17年度）以来16年ぶり。
- ・ 飯塚市の農村女性グループ「野々実会」代表の長野路代氏（ののみかひ ながのみちよ）が第21回福岡県男女共同参画表彰（女性の先駆的活動部門）を受賞。長年、農産加工品製造販売により、女性の経済的自立を自ら実践するとともに、小学校での食育体験など食の伝承活動が評価。

地域のトピック

○ 耕畜連携による自給飼料（青刈りとうもろこし）生産利用の取組を開始

- ・ 飼料価格の高騰を受け、嘉麻市の酪農家と桂川町の耕種農家が連携し、栄養価の高い青刈りとうもろこしの生産利用の取組を新たに開始。初年度作付面積は17.5ha。
- ・ 耕種農家が水田の転作作物としてとうもろこしを栽培し、酪農家が県産飼料生産機械導入支援事業で導入した専用収穫機により、未成熟の状態でも収穫（青刈り）し、ロール状に梱包。ロールにフィルムを巻いて乳酸発酵させた後、牛の飼料として利用。



専用収穫機による収穫・梱包



ラップマシンによるロールのラッピング

■ 林業

- ・平成29年7月九州北部豪雨で甚大な被害が発生した林地19箇所のうち、18箇所について復旧工事が完了。残り1箇所についても早期完成を目指す。また、令和4年9月の台風14号による林道被害についても、被災した赤村の2箇所の復旧工事が完了。
- ・添田町は、7年度に開校する町立小中学校の内装に町産材を活用するため、町、県、地元素材生産業者といった関係者で構成される地域材利用検討会を4年10月に設立。会長には県の木造・木質化アドバイザーが就任し、伐採から流通加工、さらに施工までのサプライチェーンの確立により、町産材の安定供給を推進。
- ・添田町の有限責任事業組合ローカルズ55では、「丸ごと大径木の挽く挽く（わくわく）使おう大きな木」プロジェクトが2年目に入り、今年度は大径材を利用した板倉工法※による実証施設を建設。建築過程を見る見学会に訪れた工務店からの関心は高く、今後、さらに改良を加えて地域材の用途開発を促進。
- ・子供たちが木に触れる機会を増やし木育を推進するため、県立英彦山青年の家や直方イオン及び山田緑地において「木工体験イベント」を実施。また、昨年に続き添田小学校の5・6年生を対象とした木育授業と植樹を実施。参加者から「釘打ちが楽しい」、「また参加したいので、次のイベントの開催時期を教えてください」といった声が聞かれるなど、どの取組も好評。

※板倉工法：柱と柱の間に横板を落とし込んで壁とする、木造建築の伝統工法。

地域のトピック

○ CLTハイブリッド工法の完成見学会を開催

- ・工費と工程の縮減を目指した「鉄骨造+CLT※耐震壁のハイブリッド工法」による建築物が、県内で初めて飯塚市に完成。
- ・施主の協力により、令和4年7月に県内の建築士や建築学科の学生、不動産業者や行政機関を対象とした完成見学会を開催し、56名が参加。
- ・「鉄骨とCLTの組立はどこで行うのか」、「CLTの防水・耐火処理について教えてください」といった質問があるなど、参加者は積極的に新しい工法に関する技術を学習。

※CLT：Cross Laminated Timber（直交集成板）の略。断熱性と耐震性に優れており、大型施設等新たな用途での木材需要の創出が期待できる。



鉄骨造+CLT耐震壁のハイブリッド工法による建築物



ハイブリッド工法について説明

5 筑後農林事務所管内

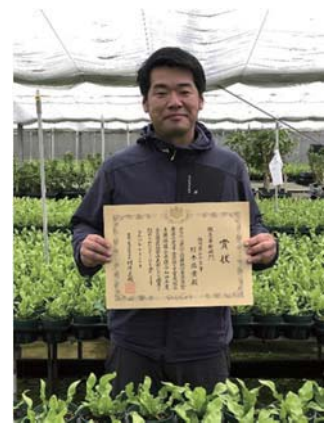
■ 農業

- ・筑後地域米麦大豆振興協議会は、近年の気象災害等の影響による大豆収量の低下に対応するため、部分浅耕一工程播種技術など、テーマを大豆に特化した「まめまめ研修会」を令和4年12月に開催。今後は、県育成大豆新品種「ふくよかまる（品種名：ちくしB5号）」の本格導入に向け、実需者から求められる高品質大豆の安定供給を推進。
- ・飼料価格の高騰が続く中、大川市の和牛繁殖農家及び広川町の酪農家が、県産飼料生産機械導入支援事業を活用し、最新式の汎用型微細断飼料収穫機をそれぞれ導入。これにより、微細断による高密度梱包が可能となることから、良質なサイレージ生産による輸入粗飼料との置き換えを推進。
- ・野生鳥獣による農産物の被害を軽減するため、農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーを講師に招き、八女市で地元農業者を対象に研修会を実施。現地で野生鳥獣の痕跡や被害の状況を点検し、対策について合意形成。今後、集落全体で鳥獣被害対策に取り組み、被害軽減を推進。
- ・県営農村総合整備事業 山川2期地区（みやま市）では、立山黒ヶ谷のミカン山の農道を拡幅整備。4年11月に延長940mが完成。荷傷みを防止し、中小型トラックが通行できるようになり収穫出荷の作業効率が向上。
- ・筑後川下流域では、これまで湛水被害軽減のためクリークの先行排水を市町ごとに実施。より効果的に行うため、3年度から情報の共有やルール化を進め、取組を広域化。流域治水プロジェクトにも位置付けられ、4年度は6回の大雨予報で先行排水を行い、浸水被害なし。

地域のトピック

○^{すぎもとゆうき}杉本佑貴氏（みやま市）が令和4年度全国優良経営体表彰で農林水産省経営局長賞を受賞

- ・みやま市の花き生産者である、杉本佑貴氏が令和4年度全国優良経営体表彰の販売革新部門において農林水産省経営局長賞を受賞。
- ・経営継承後、切り葉生産主体の経営から多品目の観葉植物の生産販売にも着手。
- ・欧州や東南アジアの現地生産者と密に連携し、安定した苗の供給や希少な品目の商品化を実現。
- ・飾り方を提案した商品づくりや地元での展示販売、ワークショップの開催などを積極的に行うとともに、海外販売プロジェクトを立ち上げ、海外向けの販売も拡大。地域のモデルケースとして優れた手腕を発揮。
- ・また、地元小学校への花材提供や社会科見学の受入れ等、花きの認知度向上に尽力するとともに、農福連携の取組を通じ、地域の雇用創出にも寄与しており、地域農業の発展に貢献。



経営局長賞を受賞した杉本氏

■ 林業

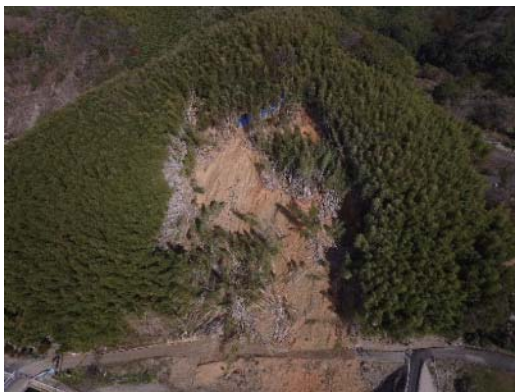
- ・第53回福岡県椎茸品評会が開催され、乾椎茸部門において八女市の井上勝則氏が、生椎茸部門においては八女市の井上美佐子氏が、それぞれ優れた生産品を評価され農林水産大臣賞を受賞。今後も地区の生産者の手本として活躍されることに期待。
- ・福岡県八女森林組合では、素材生産現場の労働安全確保に向け、一人親方向けの労働安全講習会を八女市で開催。地域の素材生産事業者等約80名が参加。かかり木処理の禁止事項の徹底や安全装具の導入により、林業現場での労働災害ゼロを推進。
- ・「八女地域材サプライチェーンマネジメント協議会^{*}」では、八女産材を使った建設を希望する施主を対象に伐採現場や原木市場を巡るバスツアーを開催し、約20名が参加。参加者からは「地域の木を使うことが森林を守ることに繋がることが分かった」、「八女の木に興味を沸かした」との声が聞かれるなど好評。
- ・早生樹センダンの活用を支援するため、大川市の家具業者と八女市、県によるセンダン活用推進会議を開催。今後、県が植栽適地に関する試験研究の成果を示し、適地へのセンダンの植林を促す。また、大川ブランドの家具用材として活用するため、製品開発を推進。
- ・福岡県八女森林組合では、昨年度からスギコンテナ苗の生産に取り組んでおり、1年の育苗期間を経て自己所有林への植栽を開始。今後も成長した苗を所有林に順次植栽し、計画的な再生林を推進。

^{*}八女地域材サプライチェーンマネジメント協議会：八女地域の木材流通の効率化を目指し、地域の森林組合、製材所、工務店等により組織された協議会。

地域のトピック

○令和3年8月豪雨による林地被害の復旧に目途

- ・令和3年8月豪雨により被災した八女市及びみやま市の林地の復旧は、県が災害関連緊急治山事業により施工した4カ所のうち2カ所が完成。残る2カ所も令和5年に完成予定。



被災状況



復旧後

6 行橋農林事務所管内

■ 農業

- ・ J A福岡京築いちご部会では、収量の高位平準化を目指し、高収量者と担い手農業者が施設内に環境測定装置（ICT機器）を設置。互いの測定データを比較・検討し、好適な栽培環境等を明らかにするための勉強会を開催。いちごでの環境測定装置の導入は3戸から11戸に拡大。
- ・ J A福岡京築新田原果樹部会果樹サポート部では、若手農業者が高齢部会員の所有する園地でのせん定や防除作業を受託。受託園地の増加や園地賃借の要望に応えるため、令和5年3月に「株式会社ふるさぼ新田原」として法人化し、組織体制を強化。
- ・ 行橋市の大規模土地利用型経営者であるアグリプロ株式会社が、強い農業・担い手づくり総合支援交付金を活用し、高度環境制御型サラダハウレンソウ施設を整備。ほぼ全量を契約取引により出荷し、経営基盤を安定させるとともに、子育て世代が使いやすい休憩所の整備や就業サイクルの配慮で、安定した雇用を確保。
- ・ 女性7人で構成される築上町の合同会社豊築マルシェモンステラは、キクイモの生産販売に加え、キクイモチップ、ドレッシング、ピクルスなどの6次化商品を開発。その商品のひとつである「築上きくいもふりかけ」が令和4年度ふくおか6次化商品セレクションで福岡県知事賞を受賞。今後もさらなる商品開発と改良に挑戦。

地域のトピック

○京築地域の担い手が、全国表彰の受賞で続々と脚光

- ・ 行橋市の^{おおたかんじ}大田完治氏が、地域農業の発展に貢献した農業者を表彰する令和4年度農事功績者表彰で、緑白綬有功章を受章。
- ・ 大田氏は、水稻、麦に加え、イチジク等を栽培する大規模経営を展開。農業指導士として19年間にわたり新規就農希望者の研修受入れや土地改良区理事長等の要職を務めるなど地域農業の発展に貢献。
- ・ みやこ町の農事組合法人上久保営農組合が、第50回全国豆類経営改善共励会大豆集団の部で、農林水産省農産局長賞を受賞。
- ・ 当法人は、ほ場の排水対策の徹底と降雨後でもすぐに播種が可能な部分浅耕一工程播種に取り組み、適期播種を実施。3年産は8月の大雨等で悪条件の中、JA平均の2倍以上の単収を確保。こうした収益向上に向けた取組や農家以外からのオペレーター育成と世代交代による組織強化の取組が高く評価。



緑白綬有功章を受章した大田氏（写真右）



農林水産省農産局長賞を受賞した
農事組合法人上久保営農組合

■ 林業

- ・木材輸出の拡大を目的に、福岡県京築地域並びに大分県北部地域の森林組合では、令和2年度に原木市場、木材商社、行政と連携した協議会を設立。3年度から中津港から中国へ向けた原木輸出を開始し、6,300m³を出荷。4年度は、前年度を大きく上回る12,900m³の輸出を達成。今後も中国での木材需要拡大が見込まれており、更なる輸出量の増加を目指し、県域を越えた連携を深めて原木を確保。
- ・管内の2林業経営体が、雇用管理の改善と事業の合理化に取り組む「認定事業主」に新たに認定（管内では5者に増加）。今後、当該認定事業主に対して、資格取得や技能研修、高性能林業機械の導入を積極的に支援し、高い生産性を実現できる林業経営体を育成。
- ・労働災害の防止を目的に、伐採・搬出現場の安全パトロールを継続して実施したほか、4年度は、森林組合の作業員に対して、労働災害を未然に防止する手法として「リスクアセスメント実践研修会」を新たに開催。
- ・「京築のヒノキと暮らすプロジェクト（ちくらす）^{*}」の取組の一環として、小倉井筒屋で木工教室（ツール）、ワークショップ（木の風鈴&かざぐるま、クリスマスオーナメント）といった木材利用に関するイベントを開催。また、LOVE FMのラジオ番組を通じて、ちくらすの活動を発信したほか、県庁11階「福岡よかもんひろば」では、京築ヒノキの木製品を展示・販売し、京築ヒノキの普及を推進。

※京築のヒノキと暮らすプロジェクト（ちくらす）：

平成27年度から開始した京築地区森林・林業推進協議会と地元の大学等による産学官連携で、京築ヒノキの新たな活用方法を提案する取組。

地域のトピック

○京都森林研究グループによる林業体験学習を実施

- ・林業経営者を中心に組織された「京都森林研究グループ」では、平成22年から毎年、林業に興味を持ってもらうことを目的に、行橋高校環境緑地科2年生を対象に林業体験学習を実施。
- ・令和4年度は、この体験学習を通じて林業に興味を持った生徒5名に対して、伐採から搬出までの一連の林業作業を体験してもらう3日間の研修を新たに実施。研修最終日には、林業経営体との交流会を開催し、参加した高校生からは、「自然の中での作業は気持ち良かった」、「自分で切った大きなスギが倒れた時は迫力があって感動した」といった声が聞かれるなど好評。



林業体験学習



林業機械の操作体験



行橋高校の生徒たち